



神崎隆洋さん。パイプオルガンを自宅に持つ超個性派音楽人は、一級建築士事務所「神崎建設」の社長でもある。

TEL : 03-3397-1150  
http://www.hinox.net

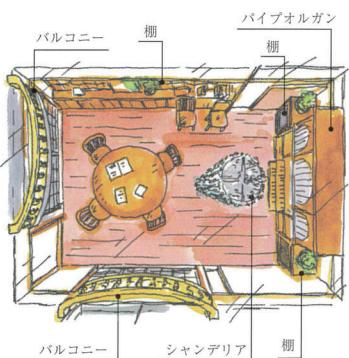


神崎さんのオルガンはイタリア式の10ストップモデル10。この中に10種類の楽器が入っているようなものらしい。



演奏会が可能なほど広いリビングも、パイプオルガンのせいか、それほど広く感じられない。オルガン上には勾配を付け、音の反射にも気を遣った。(右)

ピアノ同様、パイプオルガンも調律は難しくプロの仕事となる。神崎さんが少し調節しただけで、音はかなり変化した。(下)



## 男の音楽空間

音楽趣味人の部屋

壮大なる夢は次第に現実のものとなつてゆく。まず、念願のパイプオルガンを注文した。依頼先は岐阜県にある辻オルガン。日本が誇るオルガンビルダー・辻宏氏がひとつひとつ手作りで

「学生時代、既に周りの友人たちに、「いつかパイプオルガンのある家を造るぞ」と公言していました(笑)。卒業していったんはコンピュータ会社に勤めたんですが、パイプオルガン計画を実行に移すためには資金が必要。そこで5年で退職し、事業を始めることにしました。何をやるかは迷つたんですが、パイプオルガンを収める自分の家を建てるなら、その家は自分で設計した方がいい。ということで建築会社で修行中に一級建築士の免許を取得し、経験を積んだ後、独立したわけです」

「次はもっと大きなパイプオルガンのある家を造りますよ(笑)。そう、まるでホールのようだね」

TEXT : Saito fusa KAMINO

なるほど。しかし何故、自宅にパイプオルガンを入れてしまったのだろう。失礼ながら、とても常識的な発想とは思えないのだが。

「子供の頃からバッハが好きでしてね。ピアノを習っていたのですが、だんだんオルガンに魅せられていったのです。なかでも私を虜にしたのが、教会のパイプオルガン。その荘厳な音の響きは、私にある決心をさせました」

その決心とは、「いつかパイプオルガンを手に入れ、自分の家に設置する」というもの。それは夢というより、実行されなければならない計画だったのだ。

神崎さんが凄いのは、計画的にその後の人生を進めていったことだろう。

「完成したときの感想? それはもう、言葉では言い尽くせませんね。とにかく嬉しかった。室内はともかく、子供はまったく関心を示しませんでしたが

月を要したという。

「パイプオルガンを前に神崎さんが最初に演奏した曲は、ドミニコ・ツィボリ作曲「エルヴィアツイオーネ」。実りを神に感謝する曲である。

「パイプオルガンのある家を造る」という神崎さんの夢は、この時、確かな実を結んだのだ。

「こんなに大きな夢を実現した今、何を目的に毎日過ごしているのですか?」と尋ねてみた。神崎さんは意味深な微笑みを湛えながらこう答えてくれた。

「次はもっと大きなパイプオルガンのある家を造りますよ(笑)。そう、まるでホールのようだね」